

一甫漫集

七

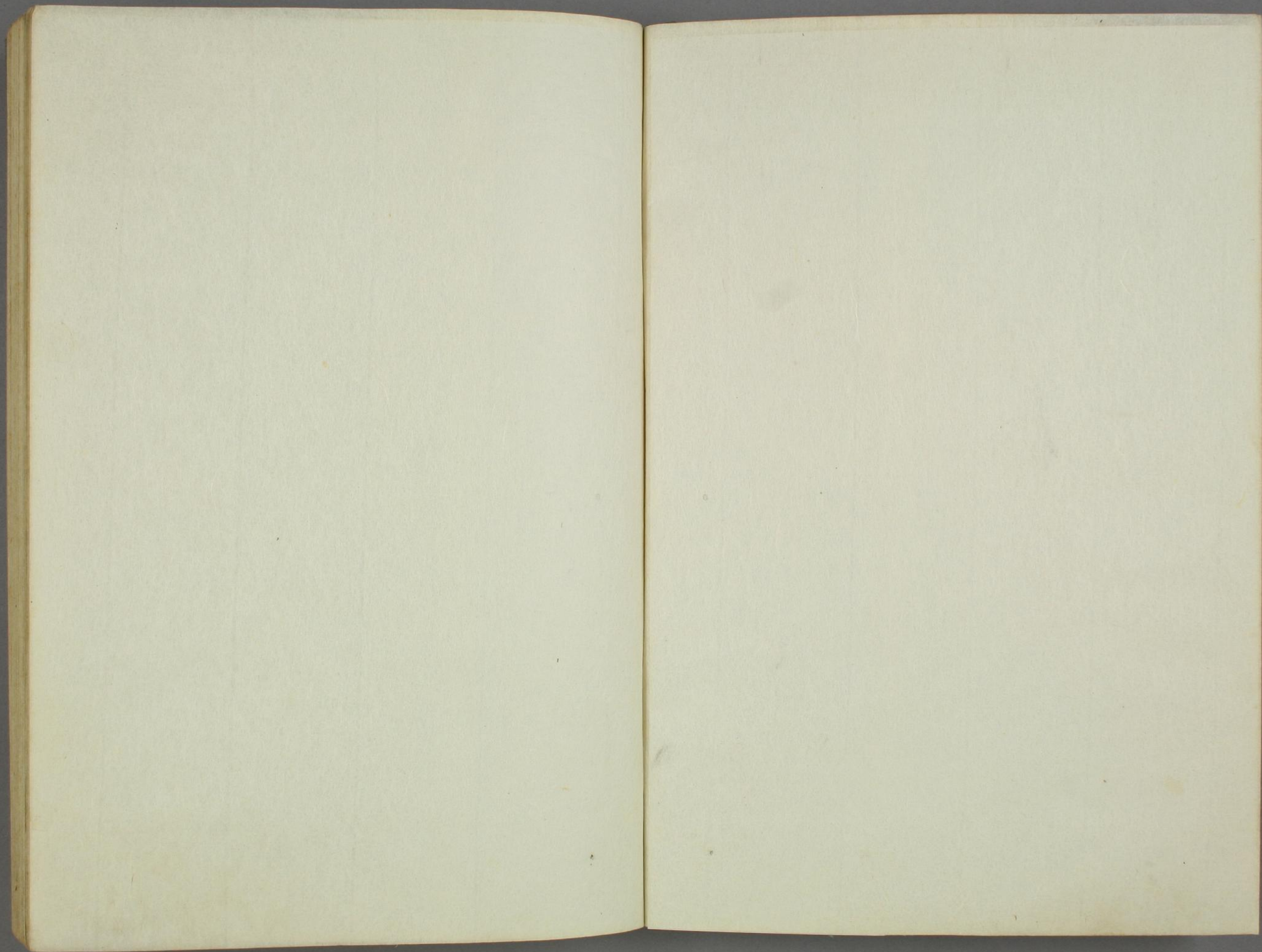
山懸大戴	蝦夷駭動	西丸一件	津徑一件
			同落首

15
35
7

15
35
7







又彼人^ハ尸身^ハ別^ニ建^テ玄^ノ事^ハ虚^ニ実^ニ河^ノ津^ノ
是^レ利^ハ不^レ及^ス之^ヲ也^{ナリ} ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ上^ノ儀^也
尸^ノ之^レ知^ル之^ヲ事^ハ右^ニ玄^ノ事^ハ也^{ナリ}尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ之^レ方^也
一^ノ之^レ對^ス一^ノ之^レ義^也其^レ知^ル之^ヲ事^ハ也^{ナリ}
又^ハ對^ス一^ノ之^レ義^也其^レ知^ル之^ヲ事^ハ也^{ナリ}
相^ノ公^ノ以^テ彼^ノ人^ノ也^{ナリ} ^ハ建^テ此^ノ味^也 ^ハ及^テ後^ノ不^レ均^也
亦^ハ之^レ依^テ之^レ隱^{居^ス}也^{ナリ} ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ其^レ義^也

一
尸^ノ身^ノ也^{ナリ}
是^レ利^ハ不^レ及^ス之^ヲ也^{ナリ}

一
名^代
酒^ノ井^ノ此^ノ也^{ナリ}

一
藏^ノ田^ノ其^レ濃^也 ^ハ事^ハ不^レ均^也 ^ハ亦^ハ之^レ也^{ナリ} ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ}
尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ其^レ義^也 ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ其^レ義^也
亦^ハ之^レ依^テ之^レ隱^{居^ス}也^{ナリ} ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ} ^ハ其^レ義^也
真^ノ相^ノ之^レ内^也 ^ハ不^レ均^也 ^ハ尸^ノ身^ノ也^{ナリ}
一
服^ノ以^テ為^レ内^也 ^ハ上^ノ之^レ也^{ナリ} ^ハ酒^ノ池^ノ中^ノ也^{ナリ} ^ハ亦^ハ之^レ也^{ナリ}
家^ノ格^ノ之^レ也^{ナリ} ^ハ向^テ後^ノ月^也 ^ハ氏^ノ山^也 ^ハ城^也 ^ハ丹^也 ^ハ後^也 ^ハ之^レ方^也

一
名^代
酒^ノ井^ノ此^ノ也^{ナリ}

一
名^代
由^ノ良^ノ情^也 ^ハ度^也

藏田貞澄が家事 吾田重吉が不始と義有しは并
外之に誠貞濃より一ノ之に以て後之方にも少く免濃
義も内ノ一ノ少く均に彼人等身事交り誠之上
進言五年方も之に誠并之つ彼人等一ノ少く
中身直一之と免濃より及挨拶の由に右之重吉誠
之重吉彼義も相勤り各之事に於て右之重吉
改身之も此の取立一ノ少く此之方義は性之上
免濃より義も實之男之事に於て八平日家事之五年
中身直一之直義之上之重吉義山徳大武之者に
中身直一之直義も此の取立一ノ少く此の取立一ノ少く

も二之に知等閑成 五年不始届義不意之
之に依り一之彼之右放浪居之 作并ん意度候
一之居之

一
訂目見元形

藏田式於
右代 初年月記

月性對する事 彼之右放浪居之 作并家督
中身直一之方直一之方合之 作并

右通八月廿日所於伊豫中殿於彼宅に於て

死罪

獄門

永以所安三常庄

山條久武

四十一

大武方、居正親所之源
中好家、由一三

夏井右門

海人

如所、自傳、居西匠

子澤準曾

神田小研丁、自一三

桃井久馬

月永富所、自代地、三三

住友源三

南原次所、自三三

潭所

西重宗

右四人、日中、為三、日、一、
遠流

波美、多放

三人、分、下、井

水野、之、枝、与、度、家、事

吉貝長右衛門

久保、之、市、心、代、左、所

甲州、巨、原、郡、龍、野、村

所、所、居、山、條、安、事

百世

市原長

中近放

重進放

17

存命ニシテ

11

17

梅

海内名流ト云テ家老

津田邦母

月用人

関中定吉

月

相系邦之史

月

津田衣冠

拓 源四郎

月之家老

吉田玄吉

日

源進放

源進

月

吉田八藏

二ヨリ以テ縁重

月

舟田波古事

月

梅 雙

魏州早次今之嘉河西田師
稻阿文更方ニ居ル

式ア
舟田正庵

梅之

河原庄跡子屋敷

今村 彈次
茂上 六郎
内 茂 源 宗

市川 堤 齋

新里 五郎 津田 見与 子 元 善 平
元 善 平 河 原 庄 跡 子 屋 敷

之 木 五 郎 三 塔

後 下 三 郎 山 代 五 宗
甲 州 井 利 於 下 河 原 村

加 賀 貞 上 總

以 人 文

加 賀 貞 上 總

甲 州 巨 摩 郡 於 於 玉 於 河 原 村
百 姓 市 席 古 車 也 歌 之

源 七

加 賀 貞 上 子 三 郎 師

加 賀 貞 上 子 三 郎 師

古 屋 貞 上 子 三 郎 師 八 郎
地 所 也

池 田 文 次

永 江 所 安 三 郎 庄 浪 人
大 武 三 郎 三 郎 子

昌 永 貞 生

梅之

大式正江

彌也

其岸島嶼所出

之為文件

以本行其書

漏得傳藏

水以所安之唐庄浪人之式

東壽

右後田豐元右後尾抄小庄左席之合豐元

中城

蝦夷騷動

二月廿四日

以采若校也

蝦夷之海之古事が其方家之進退波來の地
 夷國の梅の島の之方の海の自向新怒浪子の舟
 先達之東蝦夷上地之 作出從上議の文の正云
 作舟の西蝦夷之海之北之海之方自限新以
 屆度の之外國之境不容易事之思の方の安
 以采西蝦夷一書云 石上之依の之方

石上 延喜式 石上郡 石上郡 石上郡 石上郡

六月六日 涉慈意山 出入口坊之成沃之堤方
左ノ中ノ城

以写ノ古也 仙臺 茨城 茨城 茨城 茨城
作并ノ由ノ処 河 河 河 河 河 河 河 河
是ノ山 是ノ山 是ノ山 是ノ山 是ノ山 是ノ山
ノノ 探ノ 石ノ 石ノ 石ノ 石ノ 石ノ 石ノ
山ノ 一向 魁 掃 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
作并 是ノ 出ノ 出ノ 出ノ 出ノ 出ノ 出ノ
山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ

作并 山ノ 山ノ

和ノ 和ノ 和ノ 和ノ 和ノ 和ノ 和ノ 和ノ
山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
涉 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ

六月廿

南部 大膳 右史

石上 郡 後 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
涉 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
石ノ 通ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ
白川 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ 山ノ

三人に連中皮由中少の万才之男富し近頃上
車より及る連中備依し中間之人評信も然り
願ふ処今後五評信也 作井由是又深具是事
之波り由自然入用し付直に必り之勸負減向
少の根元波り由と云ふ事也 羊少の評書一也

一 及し此評書大井大船民物之評書也
又月并沖保延渡りも切感の事也六月廿日

又月并

世及船夷以魯西亞船其及及西箱鼓
以系し沖留る候友和見は由一候友貞

いりし流事寛政三貞年並連り流事次平了
りし人船等事より及月之波り船等事也
条一三三三三三

右一運流真州河城後浦一以知不有し由
一りしと云ふ解

六月

六月廿日

一 浪か控枚
一 是れ也

津浦誠中

若代

形須之市

船夷地は吳國船來之、此舟在、下、其、城、
流、事、一、月、度、由、切、事、以、後、の、順、

云、下、洋、成、為、云、作、舟、早、希、之、舟、

作、月、身、不、以、作、舟、以、入、急、旨、上、云、

石、於、の、白、書、院、の、派、類、老、中、列、在、大、炊、取、派、

此、以、月、海、日、涉、事、勤、未、少、凡、之、月、也、

一、云、井、大、炊、取、派、の、口、達、の、月、舟、之、市、書、名、

尚、四、月、廿、日、箱、館、の、音、里、程、也、方、東、

真、船、夷、地、上、ト、口、ヲ、涉、内、十、八、ホ、ト、下、不、也、

ヲ、口、之、ヤ、取、手、艘、來、之、波、上、陸、也、人、ト、獨、挿、

苗、倉、船、燒、拂、日、廿、九、日、涉、内、箱、館、手、以、

又、郎、向、之、名、在、在、今、示、之、ヤ、ナ、ト、下、所、也、

大、船、取、艘、先、等、波、上、陸、大、筒、也、手、撰、り、留、

勤、事、也、之、名、也、舟、六、人、渡、步、教、深、也、為、

負、り、名、も、多、し、也、夜、入、浦、自、に、在、也、火、

波、是、テ、燒、拂、り、舟、防、兼、一、月、之、ヤ、ナ、派、

川、退、由、箱、館、手、以、の、派、也、是、也、是、

去、ル、廿、七、日、箱、館、手、以、の、派、也、是、也、是、

之、派、り、亦、不、西、方、工、十、二、時、也、沖、へ、

乞、也、帆、船、も、不、見、り、右、方、別、条、

之、事、也、於、世、上、波、乞、風、聞、一、也、也、

公次庚午向、事之急度、言吐在

卯六月十日

一 抗行、且状在、如

東般夷、以角工ト口ヲ、為ク吳王、大般二般、渡來
争乱、お少ハクナリ、為クも附、等一戸、新中、城ハ付
南、於人、膳、支、津、泥、城、中、も、兼、有、彼、地、初、番、も、宗
ト、度、増、人、数、も、兼、中、達、然、ル、也、右、是、個、人、ハ
追、テ、援、兵、ト、思、ハ、方、ハ、使、ハ、押、寄、一、戸、澄、も、新、斗
九、八、取、ト、石、五、家、ト、人、数、色、も、多、ク、川、是、中、骨
沃、地、是、津、人、筒、中、筒、小、筒、玉、藥、ホ、丈、丈、ハ、

用意、取、ラ、ル、一、策、敵、ハ、向、一、言、先、出、ル、也、人、数、も、兼、
採、兼、ル、リ、追、テ、一、言、先、出、ル、存、在、自、抗、吳、變、良
再、家、ト、人、数、も、不、足、ト、誠、是、ト、モ、向、寄、口、所、ハ、
四、方、ト、一、戸、達、者、急、ラ、ル、上、在、ハ、兼、有、ト、且、實、政
二、亥、年、の、書、付、ト、説、有、ハ、向、付、辰、中、達、ハ、

二月十八日

相右安藤

抗弁右京

四波人中

程、以、酒、井、五、馬、射、設、ハ、事、不、書、ハ、也、一、達、ハ、言
公、次、世、辰、ト、達、ハ、

心別紙ノ達ハ此ノ人教ニ美シク限リヨモ有リ
少ク下ニ意ニ事ナク一切ノ所長有公此上ハ
人教ニ操出ル所存東散夷地ニ美ヨク力ニ
此ニ吳國ノ上陸江ハモ海岸遠相海
峯重ニ火炮花年我汝ハ舟弓漢ホナリ
誤炮船多ク方東國ノ地理ニ官ナシ公此ハ
月三三ニ汝ハ所存

六月十八日

一 酒井左邊尉 六月廿日 涉日番云井ノ城以魁
少田右ノ如

箱館守以羽々安流ヨリ六月十八日舟ノ
飛脚月廿日舟ノ如ニ吳國船工ト口ヲ通ク
渡ル以方地方ノ押考一戸漢新斗ヨリ
人教探出ル策敏ニ向進ク先出ル所力誠ニ舟
差ヨリ 作出ル一海軍ノ漢自ノ人教ノ内
探出ル所ノ先出ル積リヨ由在ノ不彼ノ人ノ
中ニ此ハ世辰先ヨ由一上ノ委細ノ人教ホリ
漢ノ通一上ノ上

六月六日

酒井左邊尉

計人教ノ五月中川右ヨ由為ル急ナリ

六月九日右口より左に如く

以り方幅より上り筆致書き先向い人数は浅
淡炮組物及び目舟渡小舟の積り等好き外
惣人数は百四十人、大筒は挺括り筒廿挺
小筒括挺は汝用之筒月数日指し下り候
立所波人より下り城番辰幅より上り

六月八日

酒井左衛門尉

一 飛渡園寺泊所取問屋六十嵐武之塔より先城に

少書

四月廿日エトロフト下り不^レ是^レ是^レ園取二艘系三方之
迄積り候も皮^レ替只^レ取六^レ控艘も取
江より水切し舟九^レ上り候迄、是月廿六日石
火矢相放候に控所四方迄、是等^レ船より新
陣に渡り候子江戸に渡り三人、其外^レ六人
下極^レ急^レ取^レ七人、獨捕^レ取^レ連糸石場不
不残燒拂り候迄、是等^レ船より日中取七艘
より、是入^レ新^レ楓出^レ候^レ未^レ以^レ港^レ五^レ志^レ不^レ
二艘より月^レ中^レ策^レ致^レ者^レ取^レ由^レ五^レ世^レより片
江戸妻下り候^レ進^レの^レ元^レより

一月十八日相模地下沖間英國船隻被其見の舟
所家方の舟り為山野も山も所方にも其之人数
四倍あり日夜燈火相見の傍あり是右十
日とハ十九日船が五隻あり其の船は

一 船夷地ノナリトナリ其船が被其の兵庫
田屋船(赤)中し其船宗組の人の捕外
米味暗ありし船より南に渡り赤人江左
より其船中より其船中人も百あり男其船に
四渡りとメ教り旨也之其船中人斗り其
居申の船は

一 敦賀布屋船八百石積津原の米積入沖あり
英國船の追截の舟陸へ帆上り公派の令浪り
船ヲ押陸せし其船は右の船佐渡の舟に
帆をり舟一舟又布屋船も沖に仕出り廿日
相模沖大浦小嶋より流るし右場にも英國
船の被其船見截ありし布屋船の船も
着れ渡りし津原の舟に子あり少少必
沖より帆あり其船は右の船は

一 英國船凡六百石斗り其船は由り

一 松本より北極六月八日也之白川表に廿日金沢より
海へ言借り書付たに如く

四月五日工下口より十口ホと申す所は唐船が
之岸陸地の水元上より六人の浪以て船子
見届せ六日人数或百人斗甲冒る押寄番人
般夷人生捕元船より元を外に所焼拂備
五少の処又、所浪進四月廿日圓し舎於
尸処に船取之艘人数百人斗申す押寄浪炮
人筒等々八つ所を七つ所を惣合は南に
家言敵討人浪炮を申す教り候へ一先元船に

川元より由ぬ計方より着玉葉切レ島或は打良
元船より海へ山より西の方へ押寄の辨
北は津に玉葉着せしは舟風冷利の方外に
か少く又左支浪途中より切服に候
之以て舎於に配不直候中より以て美舟
より由関吉原八席候も口切候に症候に候
皆一口より老之上舎於の會所は海是是處
に候も其上に口候に申す以て不候候
真山の由に候も由相又月報日舎於不候
焼拂り由候意に玉極子存一医師之得由

見之老之何様の運状の持系外舎於
 風冷利番人斗迎泊るらん南次家
 波人波人波八席積舟添波るそ外
 迎泊るらん波人波公細キ事ニ
 一工下口乃の形通達丸美令丸柄幸丸高徳丸
 安哲丸ツケニリ迎泊ト右子波
 石砂場へらんしる萬人丸清風丸女沖丸之艘
 空船之島之結を(又)下船坂廣西浦ら作事
 波留に下らん舟度武笠波山に舟家も
 或下六船人乗ら由只今夜船夕沖る是も

一 浪と舟何角の波相の發交事
 一 舟の發動舟波人積方の渡海に由右之
 コトニ近の見届に在るに其一日後カツ
 又カト中処に又之吳國船来り日所波燒拂
 又カト帆波の由右に波にカツノサウヤ近波人中
 又之川丸波在らん其節若枝の船波洋丸
 もサウヤ近波海らん中食ら出帆仕る風節も
 東風之波吹ハイテクハ落り処右子波鷺入
 波其の波もさく日了所波の波西ウケの方
 波地會き下雷の波くさ波の波も波

程三君の丈夫が私に又度波一瀬、今又所
及出帆は右海西ウケの河邊屋手船の幸丸
船に上り迎ふらん中船の儀は吳國船の國也
之冷方令斗りゆり度右海船とて日波海波
中へ運上公昔船大張女艘ハツカイへ渡せん
帆船より合外戸利尻方へ火之玉相見下りし
海に大波の事は急使度ありし浦の上

上松本内松本記持より因

八月晦日

白浪屋

玄庵

クイナリ

昔人

マセハ

山内文七郎

吉田常重

右邊系は船船又且私大目波に入まじ

マセハ君の書状を以て

一 右の書状より其文化元子年長海に魯西亞
人渡すに其元から書状より由

俄羅斯書記恭敬而

又日本國之に敬しは口ニヤ王とて是進す
書に載る所

貴國亦代に幾久交 亦代涉繁業津ら
況又社次我祖王に誠治しず 王王魚子と多し
才一と一 女王のい子ヲ才二と次世二代の才
我王強業に其末阿蘭陀國フランス國にニケニ
イタリヤ國イスパニ國トエツ國其外國に戰爭
元發しといふも我國の斗り以國に相治メ況
小義と願一 醫官に流州人平及ぬ給ふ
貴國に海に申候より 懸隔ありといふ大層に
地方不遠しと云ふに 行と也一 義も言及ら
向後之海に格別に治法に力度以て各

自昔年貴王 汗仁徳に海に女王のい子
是より不知其長也 不斗も先年貴國に船飛
風に船我國に漂流致し舟人其人の涉るに
返船しよと云ふ事 自王に申と候に 連波
を良波方と云ふ格別 涉り候に
作舟の上我王に 取再貴國に言及ら
長流に津に申す 魚に治候に 王に感謝
申す事 其言に 右為海に今取使えと云
江府評記為社等
貴國に海に吹候一 於交易に及て用り友

しるの改神くつ日 礎と入のヲロニヤ和國王が
使をく改人まことのし和改をまのせんまて
りからゆたにきりし

一 三月廿二日 被曆教一子八百三十五年八月廿日 享和二年六月廿四日

日新の和はテし子ニルツノ内ユツヘニハトカカナアリ

ヤ海并南アメリカ州ノ内フラニリヤ烟夫が

南海と同一曆教一子八百四十年九月廿日 尚子、七月廿九日

カムニカツトカニ初ノ月九月十日 調八月日新の和は

今日也二十日 改海上等列条若岸は右を被

外の島地渡来し和の所也

一 七 改使長と改人渡来 徳和改でヲロニヤ國王の

改府より官書并 沙書抄可く 右官書指紙後

中から 右書指沖波不四行使長 是れから改人

和文より 改人表使長と名指条 是上仕字書也

官書抄 改人表使長と名指条 是上仕字書也

何れ此の官書より 附屬難仕の改人依り右

官書より 改人表使長と名指条 是上仕字書也

と改人より 改人表使長と名指条 是上仕字書也

戸洋記を改人表使長と名指条 是上仕字書也

改人表使長と名指条 是上仕字書也

寛政又年六月五日

石川将監大判
村上大子大判

何人かす人
日かこころん

右長渡り渡来しヨロシヤ國へ収領之七年迄
波地十

日六日

真の右筆

石尾彦四郎

金取所取之宛

芦原清平

右田村津子以元表日再紙の付書

石川書之也取之云 作舟

西月半書院書取

水師 朱里教員

右大洲為丁用船夷地
多言はるる言云

作舟由右門入内如波左之道

言相家

右本溪物

石溪物り示如波也

作舟在舟内如在邑舟

波以らり上り下り波り

波り元は舟に交

えり由り上り下り波り

石川子勝娘

之井友七

牧師豊原

舟友忘美

大津雲四郎次郎

遠及市進

舟友忘美

之宅幸一

教員内才子

舟友忘美

日内才子

大津雲四郎

舟友忘美

右山

浦利友七

六月十日

口月升
遠山令四席

口使番

小菅松右馬

月

村上久子

振夷地口吳烟和来总波口一口舟
此也口舟 一口波音和年行夏子口三口行渡

廿六日

若年子

堀田村津子

振夷地口吳烟和来总波口一口舟
此也口舟 一口波音和年行夏子口三口行渡

口使番

井上友幸

右月所組下口方付人口木打名口氣也口根之口行渡
口渡地口聖子行

右月舟舟楫宿古波城古古之居之伴渡

日八日

大目舟

中川飛彈舟

右月舟舟楫宿古波城古古之居之伴渡

四流月舟

尚切庄之塔

八度之舟

林路四席

破野平十席

川流如彼舟
合流五苑之舟

二編若平
神谷劫右邊
西村吉之史

四小月舟舟人

小堂舟舟舟

上屋重藏

西九出少知一及
師一云

同

養
あまの国に

西九出少知一及

師一云

西九出少知一及

師一云

養

三枚借

西九出少知一及

師一云

養

西九出少知一及

師一云

養

西九出少知一及

師一云

養

西九出少知一及

山善正 五教
山善正 八人 山善正

山善正 八人 山善正

井上政之助
未三十一

飯塚甲之助
未四十一

堀 七尾 助
未四十一

桂山 山善正
未三十一

内之政 力助
未三十一

荒川 山善正
未三十一

日向 政吉
未三十一

曲澤 山善正
未三十一

安西 山善正
未四十一

園部 山善正
未四十一

内田 伊三郎
未四十一

細井 山善正
未三十一

松本 山善正
未三十一

池田 山善正
未三十一

三崎 山善正
未三十一

山善正

山善正

又 山善正 八人 山善正
山善正 八人 山善正
山善正 八人 山善正

又源...
徳...
あま...

間部年人

...

...

源左席

方...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

方 阿 加 令 湯

城中馬鹿山
隱居不覺製



雜書

一 樂_カ病_ノ 一 破病_ノ

一 一_ノ 一 狂_カ 一 狂_カ 一 狂_カ

一 子_ノ 一 子_ノ 一 子_ノ 一 子_ノ

一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ

一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ

藥法

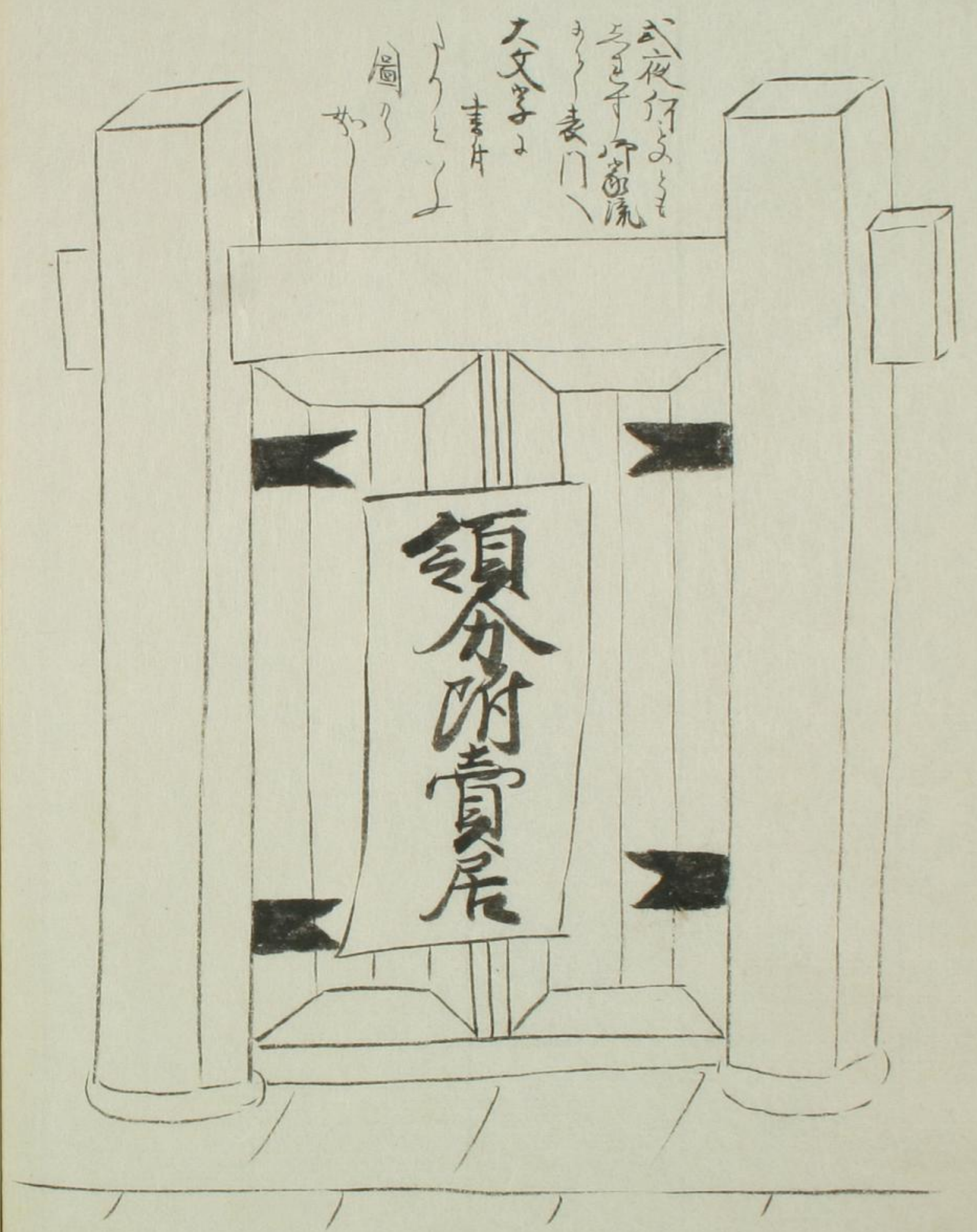
一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ

一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ

一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ 一 一_ノ

籠 夜 家
眠 中 日
者 出 鳥

輿 卑 越
禁 中 老
守 廻 棄



二人の舞

一 田安をたふして 二 にいりて 交事斗り
 三 二人の 花をたふして
 四 二人の 神がみ
 五 二人の 神がみ
 六 二人の 神がみ
 七 二人の 神がみ
 八 二人の 神がみ
 九 二人の 神がみ
 十 二人の 神がみ

人作年姪年と子くま

一 日ぬと車よりナニににに〜きか〜
ニ せんぐ〜しき〜 四つ屋敷の門〜
み 月よの権ハ〜 六つ〜
七 行事ま〜に ハつ屋敷の権〜
九 輿も〜は舞 十〜

弘永年と〜

弘永流石

一 ぬ〜こ〜に〜
ニ ぬ〜な〜
三 ぬ〜
四 ぬ〜
五 ぬ〜
六 ぬ〜
七 ぬ〜
八 ぬ〜
九 ぬ〜

人考〜

津州をきこにけりしに
弓矢も木柄のしきいさくらに
さすいで居るまひる

二行

揚子江のしきいさくら
およそくしに腰とくぐり

津州八方外とメめ

又

津州のしきいさくら

と世七やーご

- 一 又関のしきいさくら
- 一 津州のしきいさくら
- 一 関のしきいさくら
- 一 小糸のしきいさくら
- 一 要所のしきいさくら
- 一 山にさすいさくら

一 下中一頁目

□ 津州をきこ丸

ふーのしきいさくら
地を申すしきいさくら
水が羽とら

津恒海いづ川十方ふよまいこわ
ちやひまらふ木川いけ木くく
沼津へやろる沼津きよーららら
むかきかぬア浜田安う塚がきくつて
ころ人どらくわい五人きよつがーい

丹羽ものいづ路ものいづ世の中に

やまきく津恒のきよかまらん
南流を飲ぶ津恒も
かろかよるくこく

柗指

乃ごま牡丹きくくわん
牡丹條の魚こかー解きこか
ゆきまらんか柄き筆をば
あんこーまのせと牡丹花をば
むさーのかおきききき
橋う房く水勢きくく
坊人うやう死人物相こま
張らぬも張らぬあきく表
八ぼるもえんぼるかいる事せか

守の毒や名はあつ興の津恒度

上洛す月の上るに印年進きざ

少るしきいふぐきひもいふていへ

四年進下るに名をくごき人き

誠中のことをしししししししし

しししししししししししししし

流の落る

津恒の家老殿の印年いふで押けよびり

印年いふで押けよびり

印年いふで押けよびり

印年いふで押けよびり

印年いふで押けよびり

四切や〜と任まらる〜とヤ〜と
敏毛が〜〜〜人ぐら〜切服い〜
や〜〜〜の〜〜〜る〜

ころび病をえは〜人皆〜南の〜
ち〜〜の味し上敏其方遠〜
そ外〜も石を天ト〜
〜〜遠海〜
思ひ〜〜
自存道か〜〜

歌

こ〜時曾
吸物
〜
〜

〜海曲びと

〜

〜
〜
〜
〜
〜

硯蓋

〜
〜
〜
〜
〜

お膳二汁七菜

ふゆ

こしつゝい
とんをめぐ
あまのよき
隠居のこ
人音の口の合

音の物

こしつゝい
とんをめぐ

汁

大とく
田母のふ
いり

あち

あち

あち
あち
あち

あち
あち
あち

煮物

煮物
あち
あち
あち

煮物

煮物
あち
あち

汁

汁
あち
あち

菓子

菓子
あち
あち

焼物

焼物
あち
あち

奥の方のの宴事の内状
ていそんちのむ
此ヶあふりせり信国の瓶
清くわいりき
そんあふりしりき
外は口とそりあふり
そんあふりしりき

田母の取君
及家の婿物
浪居
合で
字の 輿
こりか
右代
字の
こり

寛政の板本曲字子名戲仲戲子名所番繪内本

芝井碑

此碑の建名之形編笠此五久井垣府此首少似自刊

其文曰

蓋惟バ芝居三座の社ハ野麻業師の本地佛也
理世界ニ在見殊寛示自在の靈場なり
ハ廬生ノ粟の飯不第
見れハ秋と
花を評てハ

雪成尺そハ衣ノ志^しねぬ茶^ち乃^のを^を頼^{たの}ふ^ふ白^{しろ}む^むハ^ハ志^し升^{のぼ}の
桐^{とう}後^ごより^{より}年^{とし}抽^ひ流^り——^{——}月^{つき}日^ひ星^{ほし}ハ^ハ竹^{たけ}の^の葉^は其^{その}地^ち天^{てん}上^{じやう}ハ
如^{ごと}く^くさ^さる^る花^{はな}ハ^ハ籠^{かご}——^{——}海^{うみ}参^まと^とあ^あく^く多^た多^た如^{ごと}く^く後^ご長^{なが}
く——^{——}の^の字^じと^とま^まね^ねる^る似^に多^た利^りと^とひ^ひや^やの^の多^た約^{やく}糸^{いと}の
二^に合^あと^と舞^ま——^{——}松^{まつ}び^び留^りる^ると^とち^ちの^の鬼^{おに}火^か最^{さい}酒^{しゆ}桌^{じやく}——^{——}馬^{うま}ハ
溜^りど^どく^く人^{ひと}と^と茶^ちを^を牛^{うし}ハ^ハ歩^あり^りま^まし^しと^と抱^かき^きて^て遠^{とほ}入^いる^る張^{ちやう}筆^{ひつ}
の^の葉^は流^りり^りれる^る存^{ぞん}づ^づい^いた^たく^くほ^ほら^ら終^{しゆう}ハ^ハ新^{しん}の^の飯^{いひ}籠^{かご}多^たた^ため
し^しづ^づか^かし^し大^{だい}厦^{じやく}高^{かう}樓^{ろう}の^のめ^めぎ^ぎま^ま——^{——}ま^まも^も忽^{とつ}ち^ち寂^{じやく}莫^{もく}多^たる^る
甲^か冢^{さか}と^との^のり^りと^と新^{しん}人^{にん}群^{ぐん}集^{じふ}此^{こゝ}市^し中^{ちゆう}ハ^ハ新^{しん}人^{にん}多^たく^く中^{ちゆう}ハ^ハ多^たく^く多^たる^る

山林^{さんりん}と^と交^{かう}ス^スリ^リ海^{かい}屋^{いつ}と^とあ^あや^や——^{——}ハ^ハま^まき^き——^{——}と^と危^{あや}う^うと^とお^おと
ハ^ハ狗^{いぬ}海^{かい}と^とハ^ハつ^つら^らり^り花^{はな}を^を籠^{かご}に^に入^いれ^れて^て後^ごの^の會^{かい}多^たと^と見^みれ
ハ^ハ奥^{おく}の^の一^{いつ}間^{かん}ハ^ハ危^{あや}う^う人^{にん}多^たく^くと^と又^{また}也^{なり}と^と見^みれ^れと^と危^{あや}う^うと^と見^みれ^れ
顔^{かほ}多^たく^く——^{——}如^{ごと}く^く危^{あや}情^{じやう}多^たく^く花^{はな}に^にけ^け思^し案^{あん}——^{——}お^お節^{せつ}に^に
人^{ひと}多^たく^くと^と密^{みつ}後^ごも^もお^おハ^ハ薄^{うす}縞^{こう}を^を身^みに^に纏^{ちん}ひ^ひ——^{——}と^と忽^{とつ}ち^ち
禮^{らい}禱^{たう}ハ^ハ尾^び羽^う打^うた^た花^{はな}と^と生^{せい}死^し流^{りゅう}轉^{てん}の^の松^{しょう}や^やと^と月^{つき}日^ひの^のね^ねと
其^{その}如^{ごと}く^く葉^は多^たく^く衰^{すい}終^{しゆう}ハ^ハ所^{ところ}に^に年^{とし}ハ^ハ里^りと^とく^くハ^ハ新^{しん}と^と多^たく^く多^たる^る
待^{まち}此^{こゝ}群^{ぐん}集^{じふ}信^{しん}心^{しん}忽^{とつ}ち^ち擔^{たん}お^おめ^めハ^ハ式^{しき}ハ^ハら^らを^を——^{——}武^ぶハ^ハ
新^{しん}と^と多^たく^く

世に利生八百に新を里又寄舞人の見ゆふふ
よめて業を増せとぬ一音ひらふ赤を運び眞
負合伴の業ハ病疾業舞の結痛を治し菽
入娘の身丈を伸せゆ平寄といん娘持妙とせん
歎舞一面の石少勤しとく氷く三番の手裁り
伴人 歌曰

吁このむし〜天の雲乎 目あは月の花と確しと

松花たてどの色之ぬ業 柱七のら〜赤く傳下

